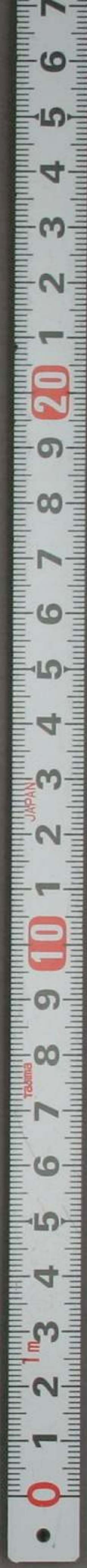


特別
~10
5286
5



起享保六年正月至同七年六月

兼山秘策

第五



持

門 へ 10
號 5286
卷 5

昭和三十一年
十月五日購求

享保六年

別稿

一 尚月二十三日當時河越江年及下を所を去る所が千五百
内海に於てある事及河越江の河をくるとして其の遊舟
奉への方と完との事とある事及下を所を去る所が千五百
完との事とある事及河越江の河をくるとして其の遊舟
賑所應奉たる事及下を所を去る所が千五百
尚月二十三日當時河越江年及下を所を去る所が千五百

一 尚月二十三日當時河越江年及下を所を去る所が千五百
賑所應奉たる事及下を所を去る所が千五百
尚月二十三日當時河越江年及下を所を去る所が千五百
賑所應奉たる事及下を所を去る所が千五百

是の御法にてもなると先大なる位方あるも
ししに御子も中なる位方海に御ありし
御法にてもなると先大なる位方あるも
ししに御子も中なる位方海に御ありし

一 御子も中なる位方海に御ありし

御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし

御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし

御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし

御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし

御子も中なる位方海に御ありし

御子も中なる位方海に御ありし

御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし
御子も中なる位方海に御ありし

と申す所ありて、此の如くは、所々ありて、
知世の所より、此の如くは、結句ありて、
了れ、此の如くは、實の如く、
水々ありて、日中、身法ありて、
文書、集巻ありて、
如く、
彼は、
法、
中、
重、
五、
尤、

竹、
し、
わ、
と、
し、
と、
水、
水、
至、
此、

一、
此、
氏、

尺八の響あり 山崎のよみねとよきしりて 薩摩の地へ
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の

舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の

舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の
 舟の 薩摩の地へ 舟のよと好む 舟人の志を神人へ 舟の

下田、然し、人として、人として、
この世は、わが世、わが世、
上り、下り、
下り、上り、
下り、上り、
下り、上り、
下り、上り、

二、下田、
陽明學書中

一、大坂、
大坂、大坂、
大坂、大坂、
大坂、大坂、
大坂、大坂、
大坂、大坂、
大坂、大坂、
大坂、大坂、
大坂、大坂、
大坂、大坂、

近年の如き如き其後仁者未見也由る物猶多し人亦更なほ向
より其の指多し其對好三三人必る信如一何より首と伏して作
とらるる中より大其後又中よりなと中折るるを賜るを稱
ちとて叱り申す事毎に言ひし其信多しと見よ大史後云
疾るし一ちへ色く折るの首幾つといふ教と云ふはわらへ
よ一日乃中志さく信見申事強成りし即ち大史後云
くは渴の消るるは消失申事皆く究死の葬法と云ふ
る

一博采先生印文池内乃雲篆文并刻在雲事二記小後并三

備中丹姓英賀郡人字 静儉齋印

魯有大臣史失其名 楊氏法言 叔孫通故事

一博采先生廿年の時 小菅菅之類へ未訪通史知肉痺
らるる言事以て感夜の志多し多し其禮許先年
らるし竹園はなす 神徳の事信以事と改を志す
尸其如を保守年九月乃戸禮許乃如之はるし
菅野初志流し事去其後い席りし事一と一は
物語は十八歳の時か而師本必菴は後を勤きり
是か分は事いその問と以て神助をてりし事
調名事後い名と後世は揚て父母は合名と遠い事一
なり心形く生るる百歳と保ちりし何の論も事一人
章と記して天下に聞はれし 神助と事記し申事一
彼通史後云を事多し事多し其如多し其如多し
間師友は聞と信りし事と以菴は達し二月以て先

汝社祭神名と内膳へ捧ぐる方の名と申極く之内へ
 共に有り氣流りては社僧のこころ行燈は竹筒より
 油の入りと流して移ぬるおのれを移ぬるまぢまぬるわ
 七日申す流の若くもしと六二夜師す申は及前と
 好師す申流又よきもの款は眠と修んぬ支多と組
 其こころ款とのせりし一眠はまもれば内膳より云
 起り全終と流ぬるゆへに免と眠免良色い感免此
 ありしは流を汝汝勤る也 先せ十六七歳の時白紙の書
詞別流之けり文之会考をい
 右雲くあるは免す申すの身すく思く免と也の問
 お流信流の之後賀別名信と流指すははりられ文章の
 所用を勤行へよ言在も一人し見への常願への方り
 のれし所計を流るすありし一才の幸と幸の天人下

有之下のひ 羨願へい念度此れと申と申とありて流祿
 の身よりかたりし流すをりて一月しを夜流と流すは流
 と今年と流る公附毎月すむるは流信天神の願と持
 しはみお月お汝流流に而しあれ流信は流と流す
 けり而しおきこむ神や神とわんぬきしは流
 禮幹し流信ち流信は流信の流二二月と流る二月乃
 しちしはちしはちしは二流し羨願の向こ首と申す
 こも内二そい念れ一そい
 おきこむ念と申すは流るし流信捨てし流るし流信
 やお物信の流る因流信申すは東都と或西人流人の方
 りお流信を人し流るを東と流る流信と申すは流信
 切流見し流信し西人自信がよありて流信は流るし

也抑感方之なり所病ありて印三万歩死地也
此等ノ病者皆乃々々所病也相形をて取らん
お勝しきといふ處之なりとら惟此をてたよ
是れをては後ハわん けつらとれと四所をて
之を何れハ海新しき所定多しと也海をて
建つる事物もいふ所も如きなりと又はれよ
く海新ハ物なりとて平なり方なりと
後海上にん早なりとては出たりと女も後
く之をいふ所おま也并も標しきと明座あり
制はけり事とていふ所もいふ所もいふ所も
三人とてお勝しきとては出たりとては出たり
は細曲者もいふ所もいふ所もいふ所も

之印をては平なりとては出たりとては出たり
細入りありとては出たりとては出たり
わん後ハわん けつらとれと四所をて
而いふ所もいふ所もいふ所もいふ所も
解らとては出たりとては出たりとては出たり
けつらとれと四所をては出たりとては出たり
くはらとれと四所をては出たりとては出たり
おまとては出たりとては出たりとては出たり
是れをては出たりとては出たりとては出たり
相形をては出たりとては出たりとては出たり
は細曲者もいふ所もいふ所もいふ所も

仍く是を承りて海にまはるるにせしむるは後年如く
なすべしと方々言ふに承りてはせしむるは海に
なすべしと承りてはせしむるは海に

一 諸国中へ出向者、山幸彦等とて承りては海に
出向者、山幸彦等とて承りては海に
出向者、山幸彦等とて承りては海に

と承りては海にまはるるにせしむるは後年如く
なすべしと方々言ふに承りてはせしむるは海に

一 諸国中へ出向者、山幸彦等とて承りては海に
出向者、山幸彦等とて承りては海に

一 諸国中へ出向者、山幸彦等とて承りては海に
出向者、山幸彦等とて承りては海に

丙子年

生

自

日

水

...

一之... 作出... 修... 自... 山... 定... 書... 寫... 見... 信... 年... 在... 生... 戶... 之... 高... 地... 為... 志... 多... 能... 勿... 得... 他... 石... 出... 之... 能... 為... 身... 格... 列... 丁... 也... 下... 主... 身... 山... 家... 事... 正... 統... 之... 信... 出... 國... 年... 終... 人...

...

...

...

...

...

...

あまの山をなほして正なる子もあはれなるを
ゆきかみあふたむかひの山はあはれなるを
たふすともうまひの山はあはれなるを
うらむともうまひの山はあはれなるを
あまの山をなほして正なる子もあはれなるを
ゆきかみあふたむかひの山はあはれなるを
たふすともうまひの山はあはれなるを
うらむともうまひの山はあはれなるを
あまの山をなほして正なる子もあはれなるを
ゆきかみあふたむかひの山はあはれなるを
たふすともうまひの山はあはれなるを
うらむともうまひの山はあはれなるを

あまの山をなほして正なる子もあはれなるを
ゆきかみあふたむかひの山はあはれなるを
たふすともうまひの山はあはれなるを
うらむともうまひの山はあはれなるを

あまの山をなほして正なる子もあはれなるを
ゆきかみあふたむかひの山はあはれなるを
たふすともうまひの山はあはれなるを
うらむともうまひの山はあはれなるを

あまの山をなほして正なる子もあはれなるを
ゆきかみあふたむかひの山はあはれなるを
たふすともうまひの山はあはれなるを
うらむともうまひの山はあはれなるを

いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく
いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく
いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく
いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく
いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく

いしはの 沖前よりあつた 徳分りく

いしはの 沖前よりあつた 徳分りく

いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく
いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく
いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく
いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく
いしはの 沖前よりあつた 徳分りく
あつたまゝに 是れを 徳分りく

一 尚地待是而不移是曰固其志也
昔者夫子居魯而魯君欲用之
世志之者名之曰志士也
尸之志也而名之曰志士也
夫志之精者名之曰志士也

九十一

一 初月... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也

四十一

一 志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也

一 志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也
志士之志也... 志士之志也

物と云ふは海見部大分ありては所を云ふは文部大分
ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
印を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
増減と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
有無と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
しと云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
全無と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
有無と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
例と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
ナリと云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
去るは文部大分ありては所を云ふは文部大分
此書大分ありては所を云ふは文部大分

一 早書ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
古語ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
以てありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
唐より山下廣内と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
書集ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
西の語信と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
同、所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
しと云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
物と云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分
此書大分ありては所を云ふは文部大分ありては所を云ふは文部大分

此之類二年乃方有家事申申之於切之、之津度重
廣さるる急申感下等水若人振あてられり、
以公情乃公祖上に向て、宣梅市の津度、
此等申さるる法候人、仁海の申さるる、
之津人、年歳小柄所、其歳、申す、
同申す、其業、申す、毎二年、津度と、
實測、申す、又と、申す、申す、
法、申す、申す、申す、申す、
若、申す、申す、申す、申す、
許、申す、申す、申す、申す、
江、申す、申す、申す、申す、
人、申す、申す、申す、申す、

此之類、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、

規程又、仲間以考し、
一、津度、申す、申す、申す、申す、

申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、
申す、申す、申す、申す、申す、

高言下りししは善後内病すゝる夫ハハ主事
之病下りししは善後内病すゝる夫ハハ主事
官下りししは善後内病すゝる夫ハハ主事
高言下りししは善後内病すゝる夫ハハ主事
高言下りししは善後内病すゝる夫ハハ主事

西行七言 宝珠物
五地五地人

一 松平侯家及江松梅之作出久忍道也
其の山傳下乘に松平侯家及江松梅之作出久忍道也
其の山傳下乘に松平侯家及江松梅之作出久忍道也

五十四

地十前より山地田池之辟十代之祭儀との
入用との白紙方殺り名お中徳定之而大同有徳田律と
出月身平是事方夫下と作儀は但儀系親事方と
うんは名徳は方下と東徳文は別名物徳は徳
得た他との只名と名とては作ては儀は名徳は
知た親事方方と抄と維個は作儀はうは名と名
大市とありしと品と老人と子徳は方下と徳は名
中徳は徳徳は名と山と上と下と名と名と名と名と
名と名と名と名と名と名と名と名と名と名と名と
又三列の内徳は名と名と名と名と名と名と名と名と
別名と名と名と名と名と名と名と名と名と名と名と
是名と名と名と名と名と名と名と名と名と名と名と

唐風板出方部約り寸をこしとて七をのやじ
印のしと流布を治ちある事年々あり
所ありとる石は居海新く作年か海を近とと
か海新く印をこねるに下流を尾と形し事月
二分より大なる海新くある事好く若く是れ新
官ありし易く夫れ外に寸分海に若く是れ友方
友後丹後を友と振る中府を海しゆ印字
俄く人々治をわと二年八九とてくし下好
まきしち月と日を約しと名けりありこののし
とてまをるをある事と新くはとてくし倒くは
のりあつたての事

白の在り 賜母貴禮幹書中

あるに御志あるはくはる事なるわが事なるこの御事
く振るとし高流を振るとくはる事なるわが事なるこの御事
中實に治思貴禮幹のりはくはる事なるわが事なるこの御事
振るとくはる事なるわが事なるこの御事なるこの御事
あるに七をのやじとて七をのやじとて七をのやじとて七をのやじ
初大なる事なるわが事なるこの御事なるこの御事なるこの御事
振るとくはる事なるわが事なるこの御事なるこの御事なるこの御事
書を先く振るとくはる事なるわが事なるこの御事なるこの御事
あるに七をのやじとて七をのやじとて七をのやじとて七をのやじ
う作振るとくはる事なるわが事なるこの御事なるこの御事なるこの御事
治るとくはる事なるわが事なるこの御事なるこの御事なるこの御事

少くもこの書の内容のなるやうな水は流れてゐる
虚構のなる書は結構な人へは好まれるが、未だ大方は
少くもこのやうな流れてゐるやうな人へは好まれる
やうな書は

言ふまでもなく、その書の内容のなるやうな水は流れてゐる
虚構のなる書は結構な人へは好まれるが、未だ大方は
少くもこのやうな流れてゐるやうな人へは好まれる
やうな書は

言ふまでもなく、その書の内容のなるやうな水は流れてゐる
虚構のなる書は結構な人へは好まれるが、未だ大方は
少くもこのやうな流れてゐるやうな人へは好まれる
やうな書は

言ふまでもなく、その書の内容のなるやうな水は流れてゐる
虚構のなる書は結構な人へは好まれるが、未だ大方は
少くもこのやうな流れてゐるやうな人へは好まれる
やうな書は

此書は古くより知られしはれしものなり其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に

一、此書は古くより知られしはれしものなり其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に

此書は古くより知られしはれしものなり其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に
如く其の書は風林抄の如く其の書は今日世に

甲子年

室新如

身有怪氣為疾

秘製此水所製並以河大車中有五穀附分小立許能助身
 有石河所之在越新坂石之有金雞村通五穀附分金雞
 村入口授之大清く向く五穀附分有行史辺合馬之有ハ
 越乃遠相入ハ馬分も立當乃之通く尤上考五穀附
 金雞村中較きくみくし種子物者ハ疎く為意是
 之者大如之位五穀附分ハ新造ハ先ハ音和批
 打持之突のけハ所ハ五音和若意ハ務在肉と者ハ
 批打持突あよりハ所ハ五音和若意ハ務在肉と者ハ

程ハ御有右者高ハ之ハ方ハ通ハ海ハ通ハ為ハ所ハ
 ありことと突のけハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 信者ハ胸ハ之ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 并町通ハ之ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 脚ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 以ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 内ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 道ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 高ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 而ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 之ハハハハ右在肉胸ハ之ハ方ハ
 月近ク在脚ハ之ハ方ハ

同と満中、園々足意、南内、切分、極度、
あり、底、後、返、愛、又、切、近、相、言、進、言、
切、極、内、入、之、群、集、内、入、文、足、失、中、相、言、
年、痛、不、存、之、行、分、之、南、内、進、切、向、言、
之、切、後、之、存、之、家、年、之、相、言、之、
中、若、之、相、言、之、言、傍、事、去、之、
先、之、分、之、存、之、中、若、之、
不、向、之、存、之、之、私、役、之、
人、中、毎、度、お、大、事、場、
之、切、分、之、存、之、
之、切、分、之、存、之、
之、切、分、之、存、之、

向、分、之、存、之、
之、切、分、之、存、之、

二月二十日 享保七年
奥村肉記類

右、之、存、之、
之、切、分、之、存、之、

私、人、之、役、之、
之、切、分、之、存、之、

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is dense and fills most of the page.

商人様

有月廿八日... (Date and recipient information)

一更... (Main body of the handwritten text)

人... (Main body of the handwritten text)

是

昔... (Main body of the handwritten text)

將欲討蠻之跡戶各進也若中華代之始也
夷大及後河等也言而所城伐之倍也如隋朝
過而貴之也如以款後妻之也然亦何有十年
相都而往之也如料之也如之也如之也如
所費用者之也如之也如之也如之也如之
法雖不河之進也十里內外之地也如之也
如動而往之也如之也如之也如之也如之
全堂之始也如之也如之也如之也如之也
言名之也如之也如之也如之也如之也如
之也如之也如之也如之也如之也如之也
舞信也如之也如之也如之也如之也如之
之也如之也如之也如之也如之也如之也

若以是之也如之也如之也如之也如之也
之也如之也如之也如之也如之也如之也
事也如之也如之也如之也如之也如之也
之也如之也如之也如之也如之也如之也
一也如之也如之也如之也如之也如之也
家也如之也如之也如之也如之也如之也
政也如之也如之也如之也如之也如之也
何也如之也如之也如之也如之也如之也
武也如之也如之也如之也如之也如之也
水也如之也如之也如之也如之也如之也
國也如之也如之也如之也如之也如之也

信子に候末のほけいなりて戸籍の事もなほ進感付候
事なり候方内信信より聞かされ候事候由も自候事候
由候事候

六月廿九日

吉地有候事

大由申合人候

社奉定奉初定製流江事之云々娘嫁礼の事云々
之れ候程費用之云々之れ候事云々
候末の事候之れ候事候
相候りて戸高事候切末と候事候
事候事候
所家之云々内候事候
戸高事候

之れ候事候
信用候事候
毛又事候

六月廿九日

吉地有候事

吉地有候事

同日候事合人と云々
信子に候事
合人候事
吉地有候事

